

『季刊日本主義』No14(2011年4月30日発行)に「日瑞連携特別企画」として「西郷隆盛が見つめていたスイス」という特集が組まれています。スイス関連の研究者にはあまり目にとまらない雑誌だと思いますので、関連する目次だけをお知らせします(数字は頁数)。

- 36 西郷隆盛のスイス 上田篤 森田安一
- 60 西郷隆盛の自主・自立の思想と国家ビジョン 西垣内堅佑
- 77 「自立」と「連帯」が稀有の国スイスをつくった 玉井輝大
- 80 スイス直接民主制の発生と展開 森田安一
- 89 山岳地方ウーリ州で直接民主制を考える 野嶋篤
- 92 スイスの自由農民と日本の百姓 田中充子
- 102 言語と国家意識—多様だからこそスイスらしい ウルス・ロースリ
- 106 スイスの産業を支える三つの力 中村真木
- 113 西郷隆盛とファール・ブランド 中川勲彦
- 116 「910」を合言葉にするスイスの国防 平岡憲人
- 128 西郷隆盛スイス研究視察団と旅をともにして グェン・クレイトン
- 132 スイスで暮らして 鈴木桂
- 140 スイスにサムライを見た—スイス調査旅行を終えて 上田篤

なお、本企画を提案した上田篤氏は「西郷義塾」を主催され、そのメンバーによる調査団を2010年11月にスイスに派遣し、スイス政府機関や *Avenir Suisse* などで調査・対話をされてきた。その報告書『西郷義塾スイス調査報告書』(100頁)が2011年3月に自費出版されています。その目次も下記に併せて記します。

- 1 はじめに —いまなぜスイスか？
 - 5 経済
 - 12 農業と食料
 - 21 伝統産業
 - 32 直接民主主義と地域自治
 - 41 民間防衛
 - 52 むすび —スイス調査旅行を終えて
- 以下に「補遺・資料・あとがき」がついています。

スイス関連の専門家でない立場の人がどういう観点でスイスを考察しているか。興味が湧きます。

情報提供 2

いささか古い情報ですが、昨年 Patrick Ziltener(Hg.), Handbuch Schweiz-Japan. Diplomatie und Politik, Wirtschaft und Geschichte, Wissenschaft und Kultur. 2 Bde. Zürich 2010 (Chronos Verlag)が出版されました。第1巻は「日瑞の出会いから1945年まで」を扱い、第2巻は「1945年から現在まで」を扱い、併せて1085頁の大部な書籍です。

本文目次は7章立てで

- 35 I. Vom Beginn gegenseitiger Beobachtung zu den ersten zwischenstaatlichen Kontakten (相互観察の開始から最初の国家間の接触へ)
- 85 II. Offizielle Kontaktaufnahme und die Entwicklung der Beziehungen auf vertraglicher Grundlage (1860-1911):<Gegenseitig in guter Relation (公式の接触と条約を基盤とする関係の発展)
- 431 III. Japan auf dem Weg zur Grossmacht: Dissonanzen und Konflikte in den schweizerisch-japanischen Beziehungen, 1905-1945(強国途上の日本：日瑞関係の不協和音と紛争(1905-1945年))
- 605 IV. Die Nachkriegszeit, Rekonstruktion (1945-52) und dynamischer Wandel(戦後期、再建とダイナミックな変遷)
- 741 V. Stand des Austausches und der Kooperation Schweiz-Japan zu Anfang des 21. Jahrhunderts(21世紀初頭における日瑞の交流と協力関係の状況)
- 837 VI. Das Freihandels- und wirtschaftliche Partnerschaftsabkommen(FTEPA,2009) (日本・スイス自由貿易経済連携協定(FTEPA,2009))
- 1025 VII. Bibliographie zu den Schweizerisch-Japanischen Beziehungen(1586-2008) (日瑞関係の文献目録)

各章には、まず編者のツィルテナーZiltener氏が章全体の概説をし、ついで多数の個別テーマや人物についての解説・論攷があり、関連する多数の史料が添付されている。全般的紹介はとて多岐にわたっているので紹介できないが、たとえば第2章を例に取ってみよう。編者の導入・解説の部分では、多数の史料的根拠(Schweizerisches Bundesblatt, Diplomatische Dokumente der Schweiz, 日本の生糸輸出に関するカスパール・ブレンヴァルトの報告など)を示しながら、日瑞両国の関係が叙述される。ついで、日瑞の和親条約締結に努力した人物ルドルフ・リンダウやエメ・アンペールらについて小論、条約交渉に関する論攷、さらにアンペールの『幕末日本図絵』の第22章の写真版、日瑞交渉のための「日本への使節派遣に関して、スイス盟約者団の立法府へ宛てた連邦参事会のメッセージ」の原文、「日瑞友好通商条約」のドイツ語原文などの史料も掲載されている。初期の日瑞交流の全貌が論攷・写真・史料を活用してたいへんよく分かるようになっている。

他の章も同じように多面的な論攷があり、史料も多数添付されており、今後の日瑞関係詞研究になくてはならない有用な百科辞典的書物になっている。